

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



幼稚園の先生に学ぶ言葉かけの極意

6月4日（月）から教育実習が始まりました。実習に当たり、実習主任の先生が事前に学生に指導している内容の1つに、子どもへの言葉かけがあります。幼児期には、「先生の言葉」という「環境」の影響は、私たちが思う以上に大きいのです。様々な状況に対面したとき、先生がどんな言葉をかけるかによって、子どもたちの感じ方は元より、学びや育ちまで左右すると言います。でも、それは幼稚園という場所で、先生と子どもの関係に限ったことでしょうか？いいえ、例えば親子の関係においても、基本は同じことでしょう。

そこで、実習生にも示す言葉のかけ方の例を紹介します。ポイントは2つ。「できるだけ肯定的な表現を心がける」と「できるだけ子どもに考えさせる（判断させる）」です。これは、新たに示された「21世紀に求められる資質・能力」を育むことにも繋がります。もちろんここに示したのは言葉かけの一例です。素直に気持ちを切り替えたり立て直したり、進んで行動したくなったりするには？自分が子どもなら



- ▲ ○○しないと○しないよ！
- ▲ ○○できないと遊べないよ！
- ▲ これはダメ！ ～してはダメ！
- ▲ ～できないと困るよ！
- ▲ ○○ちゃんはできてるよ！
- ▲ それくらいで泣かないの！
- ▲ 早くして！急いで！

- ♡ ○○してから○○しようか！
- ♡ ○○して遊びに行こうね！
- ♡ これを○○したらどうなると思う？
- ♡ ～やってみる？ できそうかな？
- ♡ ○○ちゃんって素敵だね！
- ♡ 痛かったね！ 大丈夫かな？
- ♡ 待ってるよ！ 大丈夫だよ！

・ ・ ・と考えればいいということです。家庭でも是非心がけてみてはいかがでしょうか。

PS：ただし「自分で決めた約束は、絶対に守らせる」「命の危機に当たっては命令してでも従わせる」等、例外はありますよ！念のため。

できない自分、不安な自分を受け止めてくれる！⇒安心して行動する

「自分の命は自分で守る！」

東北の震災を機に、子ども一人一人にこの「究極の力」を育てることが防災教育の大きな目標となりました。今年様々なシチュエーションで今年もしっかり取り組みます！



で、ご協力の程お願い致します。

- ① 「人とかわかる力」の育成
- ② 「幼児教育」のモデル園づくり
- ③ 「社会的ニーズ」に添う園づくり

今年度は、次の三つを園経営の「重点目標」に掲げました。

「第十回学校評議員会」と「第十回学校関係者評価委員会」

